

地域包括ケアネットワーク No.85

コロナ禍の中での多職種協働と交流

玉島医師会 地域福祉担当理事 進藤 真

コロナ禍の中、感染予防策として倉敷市の介護認定審査会は書面と電話での審査となり、市内の各病院では面会制限の中、退院前カンファレンス、サービス担当者会議はZoomや書面での情報交換としている所もあります。会議や集会、講演会などがWeb形式に切り替わる中、玉島医師会でも現在、理事会はZoom形式にて開催しています。

玉島医師会では在宅医療、介護サービスに関わる多職種との連携を目的に、「倉敷市玉島地区ケアマネ交流会」「玉島船穂真備 訪問看護の集い」を開催しています。集会では医師会員、ケアマネジャー、訪問看護師だけでなく、歯科医師会、薬剤師会、保健師や行政からも参加を得て、講演とグループワーク、訪問看護ステーションの紹介、医師、歯科医師の紹介など顔の見える連携を目指して毎年開催してきました。

2020年度もケアマネ交流会の開催を決めましたが、担当の高齢者支援センターとの話し合いの中、これまでのような一つの会場で大勢が集まっての講演会やグループワークは困難と判断し、Web開催とすることとしました。医師会に来られる方々のため、医師会館内の複数の会議室、講義室を同時に使用できるよう会館内にWiFiにてネット環境を整備しました。交流会はZoomにて開催。当日は演者、司会と会長、担当理事以外は医師会館の別会場と高齢者支援センター、それぞれの居宅支援事業所で参加していただくこととしました。

2020年11月19日「倉敷市玉島地区ケアマネ交流会」を開催。今回は講演を中心に、講演後の質疑と各団体からの現状報告と感想を述べていただくこととしました。講演は、医療介護現場での新型コロナなど感染対応の知識を深めることとして、川崎医科大学総合医療センター救急科副部長 家永慎一郎医師が、「新型コロナウイルス感染症に係る対応について」、災害や感染症に際してのBCP（事業継続計画）の医師会での取り組みについて、私、進藤が「医師会におけるBCPの取り組み～地域包括BCPの策定について～」の合わせて2演題を行いました。

参加者は、合計117名。会場別では、(1)医師会館 24名、(2)各高齢者支援センター 10名、(3)事業所からのWEB参加 83名でした。Zoom形式であったため、倉敷市外、県外からの参加もありました。参加職種別では 医師 16名、歯科医師 3名、薬剤師 16名、保健推進室 3名、高齢者支援センター/居宅事業所 79名と例年通り、各職種、行政からの参加もありました。

集会後回収したアンケート結果からは、

【医師・歯科医師・薬剤師会】

非常に良かった (2)、よかった (16)、あまりよくなかった (1)、よくなかった (0)

【ケアマネ・保健推進室】

非常に良かった (18)、よかった (29)、あまりよくなかった (0)、よくなかった (0)と、交流会の評価としては概ね良好でした。意見としては、「話題がタイムリーであった」「内容がわかりやすかった」「知識として業務に役立つ」。Web開催については「新しい試みとしてよかった」「今後もWeb開催活用を」「移動がない利点があるので参加しやすい」などの評価を得た一方で、「参加者の様子がわかりにくい」「意見交換の場がない」等の意見もありました。

ケアマネ交流会での成功を受けて、2021年2月18日には『玉島船穂真備 訪問看護の集い』を同様にZoom形式にて開催しました。医師会館と各訪問看護ステーションからの参加でケアマネ交流会と同じく、川崎医科大学総合医療センター 家永慎一郎医師に「新型コロナウイルス感染症に係る対応について」の講演をしていただき、各訪問看護ステーションからもコロナ禍での活動状況など報告をしていただきました。

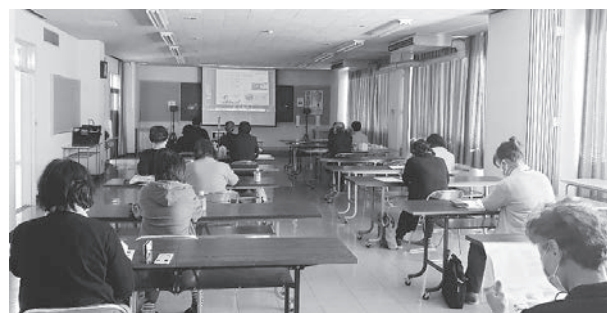
2021年5月、岡山県では緊急事態宣言が発令され、医療機関や介護サービス提供施設でもクラスター発生があり、医療介護の現場では様々な制約が生じています。新たな生活様式の中で、多職種での連携を図るための取り組みの工夫が今後も求められています。



2019年11月開催のケアマネ交流会



Zoomでの開催にあたり、打ち合わせも念入りに



ケアマネ交流会Zoom会場